

未来からの留学生

認定こども園あかみ幼稚園 園長 中田幸子
認定こども園メイプルキッズ 施設長 長島弥生

園庭の樹々の葉が風に舞い・・・落ち葉を追いかける子どもたちの元気な声が聞こえています。秋といえば、読書の季節ですね。さて、今回は、ゲストのスクールカウンセラー中山芳美より、絵本を通して親子の関わりと愛着についてお伝えします。

とっておきの話し スクールカウンセラー 中山 芳美

園では、毎週絵本の貸し出しをしています。子どもが持ち帰った絵本を見て、「どんな本だろうね、早くみたいね」「これ前にも借りてきたね」「この本お母さんも読んだことあるよ」などと言いながら、子どもと一緒に『絵本よみの時間』を楽しまれていることと思います。なかには、絵本は子どものためになるから・・・と忙しい中、眠いのをこらえて、がんばって読み聞かせをしているお母さんお父さんもいらっしゃるのではないのでしょうか。



絵本の読み聞かせの良さは、想像力が育まれる ・言語能力が高まる ・感情が豊かになる などと言われています。どれも幼児のこの時期に発達する能力なのでとてもタイムリーです。



もう一つ私がとても大事だと思うのは、親子で絵本を見ることは子どもの心を安定させて、親子の絆を深めることができるということです。

お母さんお父さんが絵本を読む声は子どもに安心感を与えてくれます。絵本と一緒に見る時は、子どもを膝の上にのせたり、抱っこしたり、横に並んで寄り添って座りますね。子どもは親と肌を触れ合い、ぬくもりを感じることで、リラックスし、情緒が安定します。そして、いつも忙しいお父さんやお母さんが「自分に100パーセント向いてくれる」と、五感を全部使って自分が親から大切にされていることを感じます。親が子どもにとっての“安全基地”になるのです・・・親から認められていると人に対する基本的信頼感が芽生え、自己肯定感が高まり、人生で様々なことにチャレンジする土台ができていきます。

乳幼児期にとっても大切なことは『愛着形成』です。

『愛着とは、ありのままの自分でOKという感覚・安心感・信頼感』

子どもが親から温かくお世話してもらうことを通じてこれらを獲得していくことです。

そのためには・・・

- ・体を使ったスキンシップ（ふれあい、くすぐりっこ、見つめ合い）
- ・心理的なスキンシップ（求めれば助けてくれる、求めている時に応じる、一貫した対応）

以上をするとよいといわれています。まさしく絵本の読み聞かせは、このどちらの要素も持っています。絵本の読み聞かせで得られるものは愛着形成をして得られるものと同じなのです・・・であるなら、毎週園から借りてくる絵本を親子で楽しむことは、乳幼児期に一番大事な愛着を形成できる、そのチャンス、その行動といえます。

お母さんお父さんのお子さんへの愛を、子どもたちに伝わる形で表現していきましょう。

絵本の読み聞かせで、子どもも親もリラックス。まずは1冊、5分から。

あたたかくして、どうぞ、お楽しみくださいね。



佐野市子ども・子育て市民フォーラム

11月3日『第9回 佐野市子ども・子育て市民フォーラム』が行われました。

特に幼児期から小学校への繋がり「架け橋期」をテーマとしたものでした。

すでにご存じの方も多いと思いますが、佐野市（栃木県）と東京大学大学院教育学研究科（Cedep）は、「保育・教育・研究交流連携事業に関する協定」を2019年に締結しました。



この協定は、佐野市の幼児教育の発展・充実に向けて Cedep が専門的知識の提供等をしてくださるとともに、私たちは、Cedep の幼児教育研究のさらなる発展に向けて、連携・協力していくことを目的とするものです。

今回の講話の中に、「幼小接続という言葉を知っていますか」という、幼小接続についての保護者の意識に関する全国アンケート調査の項目で、保護者で知っていると答えた方は、22.3%だったということでした。あかみ幼稚園の保護者の方々は、きらり等を読んでくださっているようで、ほとんどの方がご存じかと思います。さて、このフォーラムでは『幼小接続では、幼児期・学童期、それぞれの学び方の違いを理解し合い、幼児期の学びは、小学校の学びを前倒しすることではなく、遊びを通しての学びを大切に、学習の基盤となる“芽生え”を育てていくことにある』ということの再確認がなされました。あかみ幼稚園では、実体験を大切に、遊びを通しての学びを大切にしています。みなさんのお子さんたちは、メイプルキッズ・あかみ幼稚園で、たくさんの遊びを通して、感じ、試して、知的好奇心を揺さぶられ、なんでだろうと考え、また試したり調べたりして…と、大切な学びを積み重ねているのです。

(以下当日の資料より抜粋)



- 幼児期の教育は、**生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの**であり、**全ての子供に等しく機会を与えて育成**していくことが必要。
- **幼児期は遊びを通して小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う時期であり、小学校においてはその芽生えを更に伸ばしていくことが必要**。そのためには、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することが重要。
- 一方、幼児教育と小学校教育は、他の学校段階等間の接続に比して様々な違いを有しており、円滑な接続を図ることは容易でないため、**5歳児から小学校1年生の2年間を「架け橋期」と称して焦点を当て、0歳から18歳までの学びの連続性**に配慮しつつ、**「架け橋期」の教育の充実を図り、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる**ことが重要。
- 架け橋期の教育を充実するためには、幼保小はもとより、家庭、地域、関係団体、地方自治体など、**子供に関わる全ての関係者が立場を越えて連携・協働**することが必要。

教育行政を所掌する文部科学省は、**こども家庭庁をはじめとする関係省庁と連携を図りながら、家庭や地域の状況にかかわらず、全ての子供が格差なく質の高い学びへと接続できるよう幼児期及び架け橋期の教育の質を保障**していくことが必要。

https://www.mext.go.jp/content/20220307-mxt_youji-1258019_02.pdf

